

～人権協だより～

問合せ先 貝塚市人権啓発推進委員協議会事務局(人権政策課内) ☎072-433-7160

「誰か」のことじゃない。 12月4日～10日 人権週間

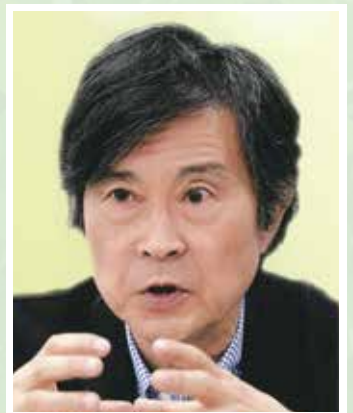
貝塚市人権啓発推進委員協議会(人権協)は、市民一人ひとりの人権意識の確立と高揚を図ることを目的に設立され、人権尊重のまちづくりを進める啓発活動を行っています。

この1年間の主な活動は、「2021人権を守る市民のつどい」(12/10下記)をはじめ、じんけんセミナーとして、「LGBT、セクシュアルマイノリティの人権」(10/12)、「在日外国人の人権」(10/17)、「わたしと部落問題～いま伝えたい 大切なこと～」(10/19)、「ハラスメントの理解と自己尊重のコミュニケーション」(10/24)、「絵本の中のジェンダーを考える～大人のための絵本講座～」(10/31)をテーマに、開催しました。

2021 人権を守る市民のつどい

「コロナ禍と同調圧力」

評論家・九州工業大学名誉教授
佐藤 直樹 さん



昨年12月に開催した「人権を守る市民のつどい」は、評論家・九州工業大学名誉教授の佐藤直樹さんをお招きして、コロナ禍にみる日本の同調圧力についてご講演いただきました。

佐藤さんは宮城県仙台市に生まれ、新潟大学大学院修士課程を修了されました。英国エジンバラ大学法学部客員研究員、九州工業大学情報工学部教授、九州工業大学情報工学研究院教授などを経て現職に就かれます。

著書に「同調圧力 日本社会はなぜ苦しいのか」(共著)、「目くじら社会の人間関係」など多数あり、ご活躍されています。

【講演概要】

「ノーベル賞を受賞した真鍋淑郎さんが記者会見で面白いことを仰いました。真鍋さんは1975年に米国籍を取得しているが、記者から米国籍を取得した理由を問われると、『日本人は調和を重んじる関係性を築いていて、いつもお互いのことを気にしている。私は周りと同調して生きる事ができない』と。佐藤さんの講演はここから始まる。

「世間」と「社会」

法学で一番大事な概念は、権利や人権だが、日本人は法律を信じる代わりに、世間や世間のルールを信じているのではないかと気づく。日本には他の国にはない「世間」があるのだ。それは、コロナ禍の対処が日本と欧米では違うことからわかる。欧米では、外出禁止命令など、命令と罰則、すなわち法のルールに基づく対処をしたことに對し、日本では自粛と休業要請という法的な強制力ではなく、周囲や世間の目という圧力、すなわち同調圧力によって対処したのである。

東日本大震災の時に、

同様のことがいえる。日本の場合、災害時であっても欧米とは違い、略奪も暴動も起きることがほとんどない。その違いは、欧米では社会があり、社会を支配している法のルールが崩壊すると、略奪や暴動も起きやすい。ところがそれに対し、日本では避難所などで世間のルールが立ち上がる。世間のルール内で、係が決められ、それぞれ任務を担い、略奪や暴動の方向には向いていかないのである。社会という言葉は海外から入ってきた言葉である。日本において言葉自体はあるが、実態として定着していない。日本における社会の代わりが世間だ。日本の社会構造は社会⇨タマエ、世間⇨ホンネの構造でできている。個人、権利という言葉も同じく、言葉としては存在しているが実態として定着していない。日本の近代化⇨西洋化において、科学や政治、法制度の輸入には成功したが、基礎の輸入はうまく定着しなかったのである。

同調圧力と「コロナ差別」

日本の同調圧力が非常に強いことが明らかになったのは、今回のコロナ禍の事

態だ。それは、新型コロナウイルス感染症の感染事例が確認された当初、未知の感染症に対する恐怖感を背景に、マスクをつけていない人を激しく罵倒する、他県ナンバーの自動車を傷つけるなどといった「自粛警察」と呼ばれる過激な言動が話題となり、感染者や医療従事者に対する差別的感情が湧き出たことからも示されている。

「私たちにできること」

私たちは、社会と世間が違ふということを認識し、区別する必要がある。同時に、複数の緩い世間に所属することで気が楽になるのではないだろうか。

コロナ差別が起きてしまった背景は次のように考えている。世間には世間のルールがあり、それは、法のルールよりも重視されている。そのルールの一つに「人に迷惑をかけるな」ということがある。これは、家庭で言われて育つことが多く、人に迷惑をかけるような行為が一番してはいけないことだと思ってしまう。それが自粛警察やマスク警察、感染者への差別が生まれることに繋がっている。人や世間に迷惑をかけるなどって感染者が批判され、インターネット上に住所や氏名など個人情報が出ると流される事態が起きた。なぜそういう行為を正当化できるのかというと、感染者は人に迷惑をかけている正義感をもって思っているからである。また外出時マ

スクをしているのも、外すことは迷惑をかけることだ、という同調圧力をうけているからである。また、感染者が感染したのは自業自得だという自己責任論が、世間のルールである「人に迷惑をかけるな」ということ、また元来深く根付いているケガレの意識と相まって、コロナ感染者差別が起こったのだ。

昨今の人権問題の一つに、SNSで罵詈雑言を書き込み、個人情報さらされるということが普通に起きている。日本は、実名で発信するとたまたかれ炎上するということから、SNSに匿名で発信する人が非常に多い。しかし、自らの名前が出ないところでは、誹謗中傷がエスカレートしていく。自分がスマホなどから発信する前に、それが実名でも発信できる内容かどうか立ち止まって考える、それを発信者皆がしたら、相当に世の中は変わっていくのではないだろうか。